

2026 年 10 月 28 日

報道機関各位

学校法人 塚本学院

大阪芸術大学

ハリウッド映画を支えるレジェンドから「オートメーション」を学ぶ！
スコット・フィッシャー氏による特別講義開催レポートを公開
～最新施設「V テック・ラボ」で世界最高峰のスタント・映像技術の裏側を伝授～

大阪芸術大学（学校法人塚本学院／所在地：大阪府南河内郡／学長：塚本 邦彦）は、ハリウッド映画のスタント撮影において世界的な第一人者として知られるスコット・フィッシャー氏を招き開催した「オートメーション」をテーマとした特別講義の開催レポートを、10 月 20 日（火）に本学公式 Web サイト「Topics」にて公開いたしました。

本講義は 9 月 3 日（木）に実施されたもので、映像学科の最新施設「V テック・ラボ」を舞台に、ハリウッド大作映画の迫力ある映像の裏側でどのような設計や安全管理が行われているかを学ぶ、貴重な機会となりました。



本学公式 Web サイト「Topics」: https://www.osaka-geidai.ac.jp/topics/sp_automation2026

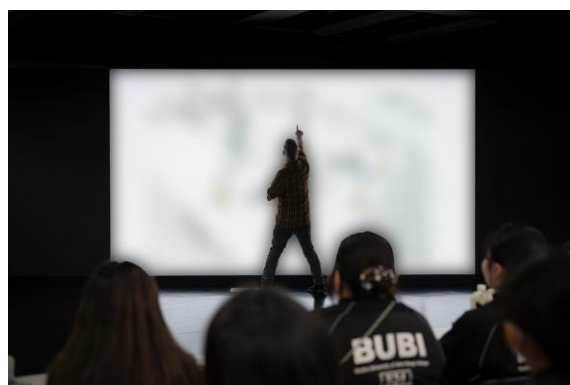
■開発者本人から直接学ぶ！約 20 年越しの「師弟の縁」から実現した特別授業

スコット・フィッシャー氏は、舞台や映画をはじめ幅広い現場で使われているオートメーションシステム「Navigator」の開発者であり、『スーパーマン』『マトリックス』ほか数々の大作映画でスタント撮影を手がけてきたこの分野のレジェンドです。今回の来校は、舞台芸術学科でオートメーション教育を担当する小林由佳客員准教授が、シルク・ドゥ・ソレイユ在籍中にフィッシャー氏から直接指導を受けていたという約 20 年越しの「師弟の縁」から実現しました。



■ 巨大 LED ウォールで世界的ヒット作の裏側を解説

会場となった 2025 年開設の映像学科「V テック・ラボ」では、横 7.5m×縦 2.5m の巨大 LED ウォールを活用。『アンチャーテッド』や『マトリックス レザレクションズ』などの世界的ヒット作を例に、ワイヤーやウインチの配置図、3DCG によるシミュレーション、完成映像を交えながら映画制作の舞台裏を紹介しました。さらにフィッシャー氏からは、NASA やアメリカ空軍などでも活用されている「Navigator」の広がりや、万一の事態を想定した安全対策・リスク検証の重要性が語られました。



■ 学内施設見学と実践的なオートメーション演習への参加も

講義後には、映画館や広大なスタジオなどの学内施設を見学し、「クラッシュできる壁を作ったら面白い」などプロならではの発想が次々と飛び出しました。また、舞台芸術学科のオートメーション演習にも参加し、「Navigator」を実際に操作しながら学生たちのプログラミング相談に直接応じるなど、開発者本人から学ぶまたとない実践指導が行われました。





■参加者・関係者からのコメント

スタントリギングコーディネーター スコット・フィッシャー氏



日本の学生の皆さんが一生懸命オートメーションを学んでいることを、とても嬉しく思います。今回大阪芸術大学を訪れて、多くの学科があり、さまざまな分野を学ぶ学生が一つのキャンパスに集まっていることに驚きました。実際の制作現場のように異なる専門性を持つ人たちがチームで仕事をする経験を積む上で、とても良い環境だと思います。皆さんそれぞれが自分の夢に向かって、絶対にギブアップせずに頑張してほしいですね。（一部抜粋）

舞台芸術学科 小林由佳 客員准教授



スコットさんが伝えてくださった安全管理や問題対応の話は、現場でしか得られない学びで、学生たちにとって大きな財産になったと思います。今回の講義をきっかけに、舞台芸術だけでなく映像の分野にも学びを広げられる可能性を強く感じました。異なるジャンルの技術や知識、発想が交わることで、学生たちにさらなる新しい表現を切り拓いてほしいと思っています。（一部抜粋）

映像学科 福本隆司 教授



ハリウッドの最前線で活躍するスコットさんに、この場所で講義をしていただけて光栄に思います。オートメーションの考え方と映像制作のプロセスには共通する部分が多いと感じました。これを機に、舞台芸術学科のオートメーションと映像学科の専門性を組み合わせた制作にも取り組んでみたいと考えています。（一部抜粋）

藤原 綾乃 さん（舞台芸術学科 演技演出コース 4 年生）



『スーパーガール』などの映像を見て、これまで CG だと思っていたようなアクションにも、オートメーション技術が使われていると知り、映画の見方が大きく変わりました。私は舞台芸術学科で演出を学び、リアル脱出ゲームの制作会社への就職が決まっています。卒業前にこうした技術にふれられたことは、これから現場に出るにあたって大きな経験になりました。舞台の表側と裏側を知るだけでなく、動きを支える技術まで学べたことを、今後の仕事にも生かしていきたいです。（一部抜粋）

■詳細なレポート記事はこちら

本講義のより詳細な様子は、以下 URL よりご覧いただけます。

URL : https://www.osaka-geidai.ac.jp/topics/sp_automation2026